

大学発スタートアップにおける経営人材確保支援（MPM）

2023年度採択事業者 成果報告書

2025年3月31日

株式会社先端技術共創機構（ATAC）

(1) 事業目的



課題

- 「研究・技術」と「事業化・スタートアップ化・経営」の間の溝
 - ✓ 自らが起業家・経営者となって（キャリアチェンジをして）まで事業化に挑戦しようという研究者は少ない
- 技術と経営人材とのマッチングにおけるタイミングの問題
 - ✓ 有能な経営人材は数も限られる上に、経営参画可能な状態となっている期間も短い
 - ✓ ある期間を限定してのマッチングでは機会は自ずと限定的になり、加えて、技術・研究者と経営人材との相性などを短期間に見極める必要もあり、ミスマッチも多くなりやすいと考えられる
- 経営人材のスタートアップ参画への環境整備
 - ✓ 特に不確実性の高い初期フェーズにおいて、経営人材が参画することの心理的ハードルは高い
 - ✓ 経営参画のための環境整備・サポートという面でもマッチングにおける課題が存在する

MPM以前 の取組

- 技術シーズの探索、事業化に向けた伴走支援、起業後の経営サポート機能の確立の取り組み
- 大学・研究機関等との協定締結などネットワーク・関係構築
- 技術シーズ・研究者を企業向けに紹介するイベントの開催

MPMで 目指す姿

- ATACの技術探索・事業化・経営の機能をさらに強化し、それをプラットフォームとして、技術シーズと経営人材との仲立ちを長期視点で可能にする仕組みを構築する
- 技術シーズの探索から経営まで一貫通貫で担える経営人材の採用・育成を図る

(2) 事業概要

実施項目	取組概要
①経営人材の発掘・育成	- IGPIグループ内人材、OB・OG、グループネットワーク、人材エージェント等も活用し経営人材候補を集める - 経営人材候補は、ATACに参画して共に技術探索等を行うことを想定し、その中で能力育成や人材評価を行う
②経営人材と大学等の技術シーズ・大学発スタートアップのマッチング機会創出	経営人材をATACの社員として雇用し、自ら技術シーズを探索し研究者にコンタクトしながら、スタートアップの創出、経営参画の機会を創出
③経営人材として経営参画するための環境整備	- ATACの社員として雇用し活動する仕組みの確立 ✓ 雇用/報酬形態、評価の仕組み等 - 組織としての経営機能の標準化・仕組み化 ✓ 会社設立プロセス、バックオフィス支援スキーム、知財支援スキーム、各種規程・書式、経営管理の仕組み、等
④取組内容及び実施結果等についての自己分析及び報告会等への参加	- 経営人材をATAC社員として雇用し、主体的な技術探索からスタートアップ立ち上げ、経営参画まで一貫して行うスキームの確立と、その有用性の検証ができた - 一方で、ボトルネックは経営人材の確保にあり、この点は想定通りには進まず ✓ アクセスできる候補人材のプールが限られることと、人材要件のハードルが大きなネック

KPI	目標値 (人/件数)	実績値 (人/件数)	備考
マッチング創出数			
イベントや個別紹介等の「出会い」に参加した経営人材の数	～20件程度	130件以上	技術探索・コンタクトをして、面談に至った案件の数
「出会い」を経て、具体的な伴走支援等の「関係構築」に進んだ経営人材の数	5件	50件以上 (3人)	初回面談を経て、事業化に向けた継続協議をした案件の数
「関係構築」を経て、スタートアップの設立もしくは経営への参画等の「意思決定」に至った経営人材の数	3件	3件 (2人)	顧問就任の1件を含む。 左記うち2件は同一の経営人材であるため、人数では2人、件数では3件とカウント。
大学等の技術シーズを起点に、設立に至った大学発スタートアップの数	2件	2件	・横浜国立大学・信田先生との共同創業 ・静岡大学・間瀬先生との共同創業
大学発スタートアップ支援数			
経営人材が関与することとなる大学発スタートアップの数	3件	3件	・横浜国立大学・信田先生との共同創業 ・静岡大学・間瀬先生との共同創業 ・スタートアップ1社への顧問就任